広島学院中学校

入試科目	算数	国語	理科	社会	総合
試験時間	60分	60分	40分	40分	
配点	120点	120点	80点	80点	400点
合格最低点					262点

算 数

1	計算と小問集合	(1) 小数・分数の計算	(2) 売買損益	(3) 平面図形(角度)	(4) 平均
		(5) 平面図形(面積)	(6) 分数の性質		
2	つるかめ算	小問数 2			
3	速さ	小問数 3			
4	平面図形	小問数 3			
5	立体図形	小問数 3			

今年度も小問数 17、試験時間 60 分と他校に比べたら、時間的余裕がある問題構成になっています(修道中は 25 問 50 分)。一問あたりにかけられる時間が長いのは、「しっかりと考えてほしい(考えられる問題を準備しています)」という事だと思います。

[1]は小問集合で6題、うち1題は計算問題です。計算問題も他校に比べると難しく、テキストに載っているような問題は(2)の売買損益、1題しか出題されていません。他の4問については、受験勉強で培ってきた知識をどう使いこなしますか?どこを突破口に考えますか?という力が問われている良問ばかりです。(3)もあまり平面図形では使わない考え方を利用しますし、(4)も(5)もちょっとひねりが利いている問題になっています。(6)は解説をみればすごく簡単ですが、初見で正答させるのはなかなか厳しいレベルになっています。では、このようなちょっと難しい問題練習を積むにはどうしたらいいのか・・・やはり過去問をはじめとした類似問題演習に勝る勉強法はないと感じます。すぐに

解法が思い浮かばなくても、落ち着いて論理的に考えれば正答できます。日々の勉強でも、難しい、分からない、と思ってから、踏ん張って論理的に考える時間が大切です。

[2]以降は大問形式になっています。

[2]は広島学院中頻出といえるつるかめ算を題材にしています。過年度の広島学院中の問題と比べたら難易度は低いですが、(2)は「差のつるかめ算」ですし、ある程度の受験知識は必要になります。まずは「差のつるかめ算」ということに思い至らなければならないので、しっかり普段から練習しておく必要があります。

[3]は速さの問題です。「動く歩道」を題材にしています。よくある題材ですが、あまり広島の入試では出題されていない単元です。広島学院中もそのことを考慮してか、しっかりと誘導をしてくれています。(1)はきちんと題材文を読めば、かけ算を一回するだけで終わりですし、(2)も「A君が歩く速さ+動く歩道の速さ=A君が進む速さ」と

いう基本事項を確認させてくれる問題になっています。しかし、(3)になると、比を使ったり、答えが分数になったりとなかなか正答率の低そうな問題です。合格最低点をみても4科目400点満点で262点、約6割6分。まずは(2)までを確実に合わすことが例年通り大切です。

[4]は色々な解法がある平面図形の問題です。(1)は「面積が等しい三角形の、底辺と高さの比の関係」を利用する広島学院中頻出の解法で考えます。(2)や(3)は相似を利用して解くことも可能ですが、「高さが等しい三角形」をヒントにして解くこともできます。往々にして広島学院中では、後者の解法の方がスムーズに解けることが多いです。過去問、類似問題演習で十分練習し、慣れておくことが大切です。

[5]は小立方体を大立方体に積み上げた図形の穴あけです。広島学院中では久々？ほぼ初？の出題となる立体図形の大問です。この大問も(1)と(2)は多くの受験生が目にしたことのある問題です。ほとんどの受験生がこの問題の解法を知っていると思いますので、「丁寧に図を書ける」＝「正答できる」と言えます。(3)になるとぐっと難易度があが

っています。指定された体積にするために、どこに穴をあけるかを考える問題です。「この段に穴をあけたら体積が $\sim\text{cm}^3$ 減る」ということを把握したうえで、穴の組み合わせを考える必要があります。穴も自由にあげられるのではなく、問題文に条件が書かれています。少し長い問題文の意味を理解できるかどうかポイントになります。

例年同様、受験勉強をしっかりとしていれば解ける問題をメインとしながら、その場でしっかり考えないと解けない初見の問題も散見されています。「合格最低点を死守する」というだけなら、ミスなく解ける問題を正答すれば届くかもしれません。ですが受験にミスはつき物ですし、難しい大問でも得点できる力を身に付けなければ、合格はおぼつきません。そのためには一度解いたことのある問題を確実に解けるようにするだけで満足することなく、過去問、類似問題を通じて、分からないと思ってもすぐに解説を見ることなく、粘り強く勉強することが必要になります。

国語

一 木下理人『チョコレートを食べたことがないカカオ農園の子どもにきみはチョコレートをあげるか？』

(説明文 約3600字 小問数25 うち記述6問)

二 蟹江杏『あの空の色がほしい』

(物語文 約4500字 小問数18 うち記述4問)

広島学院中学校の試験時間は広島で最も長い60分で、説明的文章と文学的文章の大問2題。今年もこの出題傾向は踏襲されています。文章をしっかり読ませて、語彙を問う問題から、じっくり考えさせる問題まで、良問が多く出題されます。今年も、文章量や問題数には大きな変化がありませんが、記述の出題数は近年で最も多くなっています。

大問一は、木下理人『チョコレートを食べたことがないカカオ農園の子どもにきみはチョコレートをあげるか？』からの出題です。途上国の支援のあり方について考えた文章です。前半は、バングラデシュを訪れた女優の宮崎あおいさんが、スラム街で暮らす女の子に学校に行くためにお金が欲しいと言われ、どうすべきか迷った末に、二冊の本を渡し

たというエピソードが紹介されます。このエピソードをもとにした六人の学生による討論の対話文をはさみ、人が自立するために大切なことは何かと問いかけられます。その一つの方法として、2006年にノーベル平和賞を受賞したモハマド・ユヌス博士が考案した「マイクロ・クレジット」が紹介され、人が自立するために必要なものは「自信」「目標」「責任」であるとまとめます。

問一は「はにかみながら」「画期的な」をそれぞれわかりやすく言いかえる問題で、文中の語を言いかえる問題は広島学院で必ず出題されます。問二は接続詞・副詞の空欄補充問題、問三は「何のために？」という問いかけの具体的内容を答える選択問題です。問四は文中の空欄

を補充する選択問題。「そのお米をどうするの?」という問いかけに対するバングラデシュの女の子アメナの答えが空欄になっています。ここまでは広島学院合格を目指す受験者は確実に正解したい易しい問題が続きます。

問五はアメナのお母さんがアメナの将来についてどのように考えているかを答える選択問題です。若干紛らわしい選択肢がありますが、「読み書きできないお母さん」が将来のことを実際にイメージできないという点がポイントです。

問六は学校に行くためのお金をアメナに渡すべきかどうかについて討論する六人の発言のもとになる考えを答えさせる選択問題です。討論が文中に挟み込まれる珍しい形ですが、それぞれの発言は短く、考え方の違いはつかみやすいものでした。問七は上記の討論中の発言にある空欄を補充する選択問題です。

ここからは記述問題が続きます。問八は「マイクロ・クレジット」についての三つの記述問題。いずれも広島学院受験者であれば十分に練習を積んだはずの字数指定のない1行の解答欄です。1は「マイクロ・クレジット」の仕組みの説明。2は、バングラデシュで「マイクロ・クレジット」がうまくいった理由を二つ説明します。数行の内容を1行にコンパクトにまとめることが求められますが、1行問題は頻出の問題で、十分に練習をつんだ受験生には難しくなかったと思われます。

問九は、自立するために必要なものは「自信」「目標」「責任」であるという、本文のまとめとなる部分を、アメナの事例にそって具体的にまとめた文の三つの空欄に当てはまる内容を答える記述問題。最後の「責任」にあたる部分が少しまとめにくい問題でした。

問十は、漢字の書き取りが5題（勤〔める〕、機会、雑貨、利益、功績）。「雑貨」が少し難しかったかもしれません。

大問二は物語文で、蟹江杏『あの空の色がほしい』からの出題です。近所の人から変人あつかいされる芸術家の「オッサン」先生の美術教室に通う「マコ」が主人公の物語。「マコ」も周囲からは変わった子扱い

されてきたため、できる限り目立たないように、周りのペースにあわせて仲間はずれにされないように小学校生活を送っています。そんな「マコ」は、周囲の目を気にせず、自由に生きることを大切にしている「オッサン」との交流の中で、大切なことを学んでいきます。

問一は「オッサン」の家に飾られた「古代のシャンデリア」を見たときの気持ちが表れた行動を抜き出す問題。問二は「オッサン」のマコに対する気持ちを答える選択問題。「オッサン」の台詞はそのままの気持ちを表していないことに注意が必要です。

問三は「オッサン」の台詞の背後に隠れた本当の気持ちをマコがどのように思っているかを答える記述問題。問四は「全身のすべての血液が……顔のあたりに一瞬で集まってくる」という部分でのマコの気持ちを答える選択問題。問五は文中の空欄をうめる抜き出し問題、問六はオッサンから目をそらしたマコの気持ちを答える選択問題、問七は本文中の空欄にあてはまる「様子を表す表現」を選ぶ選択問題です。

問八からは記述問題が続きます。問八は、「オッサン」が折り目の付いた新しいシャツに着替えた背後にある気持ちを答える問題。問九は、マコが友だちや人づきあいについてどのように感じていたかを答える記述問題。問十は、オッサンの作品が美しい理由を答える記述問題。この三題が少し手強く、ここを空欄にせず部分点のしっかり取れる解答を書きなればなりません。

問十一は、漢字の書き取りが5題（口調、形相、賛成、連中、見当）。「形相」が若干難しかったと思われます。

大問二の物語文の分量が若干長くなっていますが、文章は例年に比べても読みやすいものだったと言えます。記述問題数が昨年より増えましたが、広島学院に照準をあわせて練習を積んだ受験生であれば、今年の問題は易しく感じたかもしれません。だからこそ、丁寧な読解、本文と照合しながら丁寧に記号選択する、記述は文末表現や文中の根拠に注意を払いながら丁寧にまとめるなど、基本に忠実に解いていくことが求められています。

理科

1	化学分野から、水溶液の分類と水酸化ナトリウム水溶液とアルミニウムからの気体の発生の実験に関する問題 小問数9
2	生物分野から、学君と先生の会話からオオカナダモの呼吸と光合成の実験に関する問題 小問数12
3	地学分野から、学君と先生の会話から地震による断層のつき方についての考察に関する問題 小問数7
4	物理分野から、三路スイッチを使ったいろいろな電気回路に関する問題 小問数12

今年度は、従来通りの試験時間 40 分、配点 80 点で、その内容を見ると物理・化学・生物・地学の 4 分野から大問 1 題ずつ、近年話題にのぼっている会話形式の問題も 2 題、そして最後の問題はやはり物理單元からの出題になっていました。例年のような誘導問題ではありましたが、論理的に何を求めないといけないのかを考えるチカラと計算による処理能力が必要な問題になっていて、広島学院という山の高さを感じさせる出題になっていました。

1 いろいろな水溶液の分類の問題です。前半は、表もあり一見普通の水溶液の分類のようなつくりになっていますが、表の○と×の意味を考えて水溶液を特定していく必要があり、しっかりとした水溶液の知識がないと解けないものになっています。後半は水酸化ナトリウム水溶液とアルミニウムからの発生した気体の体積を求める問題です。気体の発生の問題はまず過不足なく反応する量を求めてから解いていくのが定石です。難易度は高くはなっていますが、きちんと情報を整理しながら比を解いていけば解答できるようになっています。最後のグラフの選択問題も普段あまり見ることのない形となっていて、同校ならではの化学の問題に仕上げられています。

2 オオカナダモを使って実験を行う学君と先生の会話文からの問題です。内容としては光合成による二酸化炭素量の減少を B T B 液の色の変化から考察する定番の問題ですが、前半は光合成に関する知識や植物プランクトンの名前をたずねる知識問題、後半はメダカも交えての光合成量を求める計算問題まで盛りだくさんの出題になっていました。

3 令和 6 年能登半島地震での地層のずれについて、学君と先生が会話を通して考える問題です。写真から逆断層を読み解くところから問題はスタートします。断層とは、地層や岩石の割れ目にそって、両側の地層や岩石がずれているもので、地層を引くように力が加わると正断層、地層を押すように力がはたらくと逆断層になります。積み木を使ってその力の方向を学君と先生が考察していく問題でしたが、写真はもう 1 枚あり、加わった力の方向が左右だけではなく上下にもおよびます。最後は能登半島地震前後の観測点のずれから能登半島の断層面の方向や加えられた力の方向を考える問題でした。受験理科の知識を実際に使えるように誘導しているところも同校らしい出題となっていました。

4 同校の特徴の一つでもある最後の物理誘導問題。今年のテーマも昨年に続き電気回路でしたが、同校では電流の大きさを求めるような計算問題はほとんど出題されない傾向があります。実際昨年度も電気の計算問題が 0 の出題でしたが今年度も！！しかし解いてみると、後半はなかなか手強い算数的な計算処理が必要な問題になっていました。最後の問題は三路スイッチの並び方から何通りかの配線図の中から最短距離の配線図を見つける問題で、丁寧に場合分けをし、1 つ 1 つ計算してやっと答えが出る非常に時間のかかる問題でした。はたして時間内にどれだけ受験生が正解にたどりつけたのか。同校の合格には深い知識と素早く正確な読解力、そして高い情報処理能力と思考力が必要になってきます。過去問中心に難易度の高い実戦問題を数多く解いておきましょう。

社会

1	《歴史》平安～江戸時代に関する総合問題 小問数9
2	《歴史》明治～昭和時代(戦後)に関する総合問題 小問数4
3	《歴史》縄文～昭和時代(戦後)に関する総合問題 小問数17
4	《公民》広島県をテーマにした総合問題 小問数14
5	《地理》時事問題をテーマにした総合問題 小問数14

広島学院中学校の社会は試験時間が40分・配点80点です。

問題構成は大問5つ。問題数は約60問。問題用紙は31ページあり、かなりボリュームがあります。これは問題で扱う「資料や図表」が多いことが理由です。難易度は「難」。1つ1つの知識を掘り下げて理解しておかないと解答できません。「社会」という科目の本質をみる問題が多く散りばめられています。

1 平安～江戸時代に関する総合問題

A「賀茂祭」、B「江戸から47番目の宿場町」、C「志賀島」を地図中の記号から選ぶ問題。A・Bに関しては、正直戸惑った受験生もいたはずですが、しかし、その他の問題に関しては、「束帯、飛脚、蒙古襲来絵詞を御家人が描かせた目的」などは答えやすいものでした。

2 明治～昭和時代(戦後)に関する総合問題

大問2に関しては、A「天秤にのった様々な身分の人々」B「地租改正に合わせて実施された測量の様子」C「1927年の東京の様子」D「ベルリン崩壊時の様子」といった初見の史料が多かったと思います。ただし、Aは四民平等について。Bは地租改正の目的。Cは金融恐慌。Dは冷戦の象徴であったベルリンの壁。これらの知識をきちんと定着しておけば対応できました。

3 縄文～昭和時代(戦後)に関する総合問題

901年に成立した「日本三大実録」をもとに貞観地震や多賀城などをとりあげ、作問されています。問2「平城京」の形を選択する問題は、平安京と異なり外京があるのを知っていたかどうかポイントになりま

す。記述問題に関しては、「防人として九州北部にきた理由」

「多賀城を建てた理由」などは答えやすいですが、「養和の大飢饉」が源平合戦に与えた影響を答える問題は、「食料不足による平氏の弱体化」と正答に繋がられた受験生は少ないと思います。

4 広島県をテーマにした総合問題

「昨年実施された衆議院議員総選挙にて広島県の小選挙区が改定されたこと」を題材にした問題。「地方議会の現状の問題点や地方分権を進めるための財源」についての問題。「自助・共助・公助」の具体例について問う問題。「核兵器禁止条約の内容」についての問題。「原爆死没者慰霊碑に刻まれた言葉」についての問題。どの問題についても、「思考することなしに正解を導けません。しかし、日頃から「正しい理解」をするように学習しておけば、心配不要です。

5 時事問題をテーマにした総合問題

石川県の特産品、能登半島について、金沢市の雨温図など基本的な問題。1つだけ、「能登半島が位置しているプレート」を選択する問題は、「理科分野からの出題では？」と感じます。あとは、「パリオリンピック・パラリンピック」について、韓国についての正誤問題、最後に日本の地名を答える問題が3問。他の大問より答えやすい問題が続いたと思います。

【広島学院中学入試「合格のカギ」】

① 周辺知識を理解する。

地理においては、「地名が書けるだけでなく、場所が分かる」まで。
歴史・公民においては、「漢字で書き説明できるだけでなく、因果関係
や影響なども繋げて理解する」まで極めましょう。

② 資料集・地図帳を活用する。

資料・写真・図表などを使った問題においては、その背景や周辺知識
も理解しておくことが大事です。地形や都道府県・国の位置、国旗、建
物の外観、人物写真などはインターネットも活用しましょう。

③ 時事問題をしっかり理解する。

特に政治・経済は、「よく分からない」からと敬遠されがちです。こ
こを押さえておけば、差がつきます。

④ 時間配分

宿題などをする際に、時間設定して取り組む習慣をつけましょう